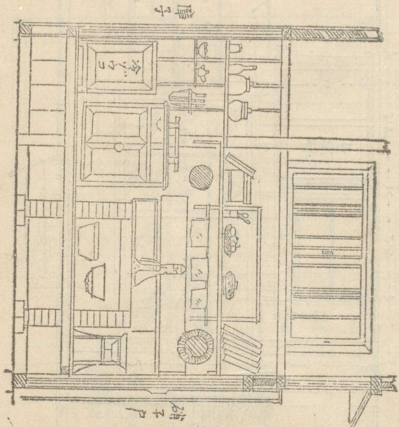
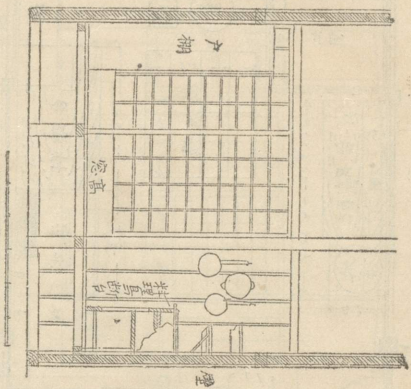
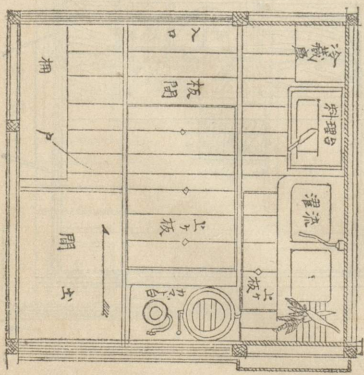
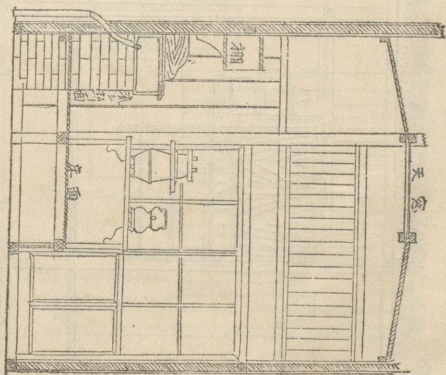


中流臺所構造懸賞應募計畫圖
第三等賞

東京高等工業學校附屬
補習學校科目制生徒

小島 鋤三郎



(記事参照)

會 報

大正二年九月廿七日本校講堂に於て第二十五回學術談話會技藝科部部會を開く

談話順序

一 開會の辭

部長 宮川スミ先生

一 横山先生の御話

一 地方の物價に就きて

技二 倉田しま

一 疊に就きて

臨教 井上よね

一 農家の年中行事

技三 片山まき

一 實科高等女學校に於ける家事科細目案

技四 下田のぶ

此の日新渡戸稻造先生の御話ある筈なりしも御病氣のため御出席なかりしを以て横山先生に御講話を願ひ致したり

地方の物價農家の年中行事に就きては此の夏二年生三年生が各自各地に歸省せるを期として特に之らにつき研究し來れる材料をまとめ發表せられたるものなり。疊につきても研究者は疊商店に到り種々研究せられし事とて何れも興味ある講話なりき

終りに實科高等女學校に於ける家事科細目案の研究報告ありて閉會す

一三八

大正三年二月廿八日本校講堂に於て第二十六回學術談話會技藝科部部會を開く

談話順序

- | | |
|----------------|-----------|
| 一開會の辭 | 部長 宮川スミ先生 |
| 一歐米に於ける手工教授の狀況 | 岡山先生 |
| 一家庭用刃物 | 技二 南 たけを |

此日東京高等師範學校教授岡山先生は歐米各國の手工教授の實況手工教室の設備の完全せる事歐米諸國の實地教育に關する經費の補助等も理論的學科より遙かに多額なる事等に就き述べられたり
家庭用刃物に就きては種々實物を示しつゝ最も興味ある話ありたりこの外技藝科三年生及臨敎生徒の談話ある筈なりしも時刻遅れしたため次回にゆづりて閉會す

大正三年六月七日日本校講堂に於て第廿七回學術談話會技藝科部部會を開く

談話順序

- | | |
|-------------|-----------|
| 一開會の辭 | 部長 後閑菊野先生 |
| 一住居の話 | 關根正直先生 |
| 一野菜の色に就きて | 技二 神戸たすえ |
| 一禮服に就きて | 技三 小村こすえ |
| 一婦人の職業 | 臨敎 渡邊 さわ |
| 一食品分拆標本に就きて | 技四 西方はるの |
| 一障子と室内の光度 | 技四 矢島 千代 |

校長先生はじめ諸先生の來會あり關根先生は住居の上代より現今に至るまでの變遷を極めて興味深く説かれたり生徒各研究者も其の研究の結果を報告せられたり

大正三年十一月十五日第二十八回學術談話會技藝科部部會を開く

談話順序

- | | |
|------------|-----------|
| 一開會の辭 | 部長 後閑菊野先生 |
| 一文學上より見たる家 | 垣内松五郎先生 |
| 一食品の貯藏法 | 技二 瀬尾 静枝 |

一三九

一 國民家計標準につきて

臨教 原田 りん

一 飴の製法

技三 池内 よしえ

校長先生はじめ諸先生の來會ありて盛會なりき

垣内先生は文學上より家といふものを極めて面白く説かれたり他の研究もととりとりに苦辛の痕見えて面白きが中にも飴の製法につきては殊に面白く説かれたり

會員諸姉に告ぐ

本會會計整理上必要有之候間本年度及び之迄に滞りし會費を母校内伊藤くら氏宛に早速御送附相成度候尙賛助員各位にして家事裁縫等技藝科に特有の學科目につきて御卒業後實地御教授の御經驗或は御研究等御心おきなく御寄稿相成度願ひ上げ候

卒業の皆様へ

在校技藝科會幹事より

學術談話會技藝科部より發行する此の雜誌の記事が卒業生の皆様の爲に益する所恐らく些少なものと思ひます何の經驗もない然も何等の必要にも迫られず比較的平凡に學んで居る在校生のみでは到底其の内容を豊富にして皆様のお爲になる様には出来まいと思ひます何卒此の科の爲に皆様の種々な御辛苦より生み出された貴き御經驗を此の誌上に奮つて御起稿下さる様に偏に

願ひ上ます。

本年度役員の變動左の如し

部長 後閑教授

委員

編輯係 林ツヤ(四年) 眞藤キヌ、石原チヨエ(臨教) 石川トヨ(三年)

庶務係 矢島千代、堀川イサエ(四年) 三輪キヨノ(臨教) 西澤みる(三年)

柴田一(二年) 石田ハル、犬飼小春(一年)

會計係 吉田ツヤ(四年) 本田ハルエ(臨教)

本年度新入會員

家事科一部一年

犬飼小春	石田ハル	林ウサヲ	長谷川花子
岡田サヨ	渡邊ミキ	加藤延	上岡アキ
吉岡香	吉野操	良永ミツエ	谷口松
高桓トキ	竹谷イト	土谷政野	中島操
上井サダ	黒田チヨ	黒谷タカ子	栗山ツル

山本 郁子 五味 サク 赤石 好江 荒井 いち子
佐々木 英 白井 イマ 鈴木 浪

家事科二部一年
岩下 カヨ 小方 道 横山 ヒヤク 竹内 ヒロエ
松田 サダ 馬淵 セン 小牧 信 南澤 ミサヲ
榎口 登之 米木 カズエ 金 徳 性 安 元 光

會費領收 (自大正二年九月至同三年十二月)

金參圓 至自大正二年 越智 きよ
金壹圓貳拾錢 至自大正二年 野村 いしよ
金參圓六拾錢 至自大正二年 七條 はな
金壹圓八拾錢 至自大正二年 桑原 いち
金壹圓貳拾錢 至自大正二年 加賀見 はるみ
金壹圓八拾錢 至自大正二年 武本 フミ
金壹圓八拾錢 至自大正二年 馬場 ミネ

會計報告 (自大正二年九月至大正三年十二月)

金參圓 至自大正二年 河村 タケヨ
金壹圓貳拾錢 至自大正二年 松岡 マス
金六拾錢 大正二年 杉江 幸
金六拾錢 同 藤井 三千代
金壹圓八拾錢 同 伊藤 クラ
金壹圓 至自大正二年 高野 みさ
金壹圓貳拾錢 至自大正二年 柿 ユツ
至自大正二年 吉岡 まさ

收入ノ部
越 緑 金 一六五四三五
會費 及在學生會報實費 五二、六〇〇
預金 利子 四、八三〇
合 計 二二二、八六五
一四三

山本 郁子	五味 サク	赤石 好江	荒井 いち
佐々木 英	白井 イマ	鈴木 浪	
家事科二年一年			
岩下 カヨ	小方 道	横山 ヒヤク	竹内 ヒロエ
松田 サダ	馬淵 セン	小牧 信	南澤 ミサヲ
榎口 登之	米木 カズエ	金徳 性	安元 光

會費領收 (自大正二年九月至同三年十二月)

金參圓	至自 同大 正二 年	越智 きよ
金壹圓貳拾錢	至自 同大 正二 年	野村 いしよ
金參圓六拾錢	至自 同大 正二 年	七條 はな
金壹圓八拾錢	至自 同大 正二 年	桑原 いち
金壹圓貳拾錢	至自 同大 正二 年	加賀見 はるみ
金壹圓八拾錢	至自 同大 正二 年	武本 フミ
金壹圓八拾錢	至自 同大 正二 年	馬場 ミネ

金參圓	至自 同大 正二 年	河村 タケヨ
金壹圓貳拾錢	至自 同大 正二 年	松岡 マス
金六拾錢	至自 同大 正二 年	杉江 幸
金六拾錢	同	藤井 三千代
金六拾錢	同	伊藤 クラ
金壹圓八拾錢	至自 同大 正二 年	高野 みさ
金壹圓	至自 同大 正二 年	柿 ユツ
金壹圓貳拾錢	至自 同大 正二 年	吉岡 まさ

會計報告 (自大正二年九月至同三年十二月)

收入ノ部	越 緑 金	會 費 及在學生會報實費	預 金 利 子	合 計
				一六五四三五
				五二、六〇〇
				四、八三〇
				二二二、八六五
				一四三

支出ノ部

一四四

第七號會報印刷費

四八^円五二〇

會報發送費

五、一〇〇

前會計係伊澤先生へ謝禮

五、〇〇〇

技藝科會開會諸入費(三回分)

六、二六五

原稿紙代

、七五〇

合計

六五、六二五

差引殘金年度繰越

一五七、二四〇

母校記事

一、昨年中に起つた母校内の大なる出来事を黒田先生と今村先生との御逝去遊れた事で御座います

黒田先生は三十年の永い間一日の如く教育界に貢献せられました但當校をお去りになりましたから兎角御不快であらせられました但昨大正三年四月遂に豊島師範學校の校長として終へられました先生の斯界に於ける御偉績と高潔にして溢るゝ如き仁愛と己れを捨てゝ人にお盡しなつた誠意とは私共の等しく愛敬して居つた所で御座いましたが今は其の温容に接する由も御座いません。又

今村先生は二十餘年の間本校の爲にお盡し下さいましたが其穩かな御人格と御懇篤なる御指導とは私共生徒の等しくお慕ひ申して居つた所で御座います現今實科教育の勃興に伴ひまして尙先生に期待する所のものが甚だ多いので御座いました去年六月に御子息をお失ひになりましたから兎角御心地お優れになりませんでしたかはからずも同年八月十日遂に御逝去なさいました先生の御盛績が永く斯界に不朽であると云ふ事を思ひますれば聊慰むる節もある様に存じますが今此處に先生をお喪ひ申したのは技藝科にとつて此の上なき損失と皆々